

「駅まち☆未来創生会議」の 設置趣旨及び今後の進め方

平成29年11月
宇 城 市

本会議と総合戦略との関係性

1

現状と課題

- JR松橋駅は宇城市不知火町御領に位置し、熊本市内に通勤・通学する市民を中心に、約 1,800人/日が利用し利用者は年々微増。
- 松橋駅の西口には住宅地と農地が広がるが、東口は商業地や住宅地があり、市街地を形成。
- しかしながら、近隣や郊外の大規模店舗の進出等の影響により、地元商店も空き店舗が目立ち、また、昨年の熊本地震の影響により、被災した店舗や住宅の解体が進むなど空き地、空き家、空き店舗が多く点在。
- さらに、駅に乗り入れる路線バスの便が少ないため利用が促進されず、交通結節点(ハブ)としての機能が果たされていない。そのため、市内・市外の沿線住民を集め、地域全体に消費を拡大させる仕組みを構築しにくい。
- JR小川駅は県道の跨線橋が完成し、今後、パーク＆ライドの推進を含む開発構想を策定。

宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 「基本目標1(ウ)稼ぐビジネスを創る」として、
 - ・5年後・10年後の「商店街プラン」の作成事業
- 「基本目標2:(イ)戦略的な移住推進」として、
 - ・空き店舗対策
 - ・戦略的な移住・企業誘致の促進(サテライトオフィスの推進)
- 「基本目標3:人口減少に合わせた地域システムの構築」として、
 - ・公共交通・買物支援等の社会システムの抜本的対策の推進



商店街の活性化、空き店舗対策、企業誘致、公共交通対策などを総合的に推進することが「総合戦略」の目標達成につながるもの。

JR松橋駅・小川駅周辺の総合活性化策の検討⇒「駅まち☆未来創生会議」

「駅まち☆未来創生会議」の設置

2

背景・目的

- JR松橋駅や小川駅の周辺地域は、近隣や郊外の大規模店舗の進出等に影響により、地元商店も空き店舗が目立ち、また、平成28年の熊本地震影響により、被災した店舗や住宅の解体が進む等、空き地・空き店舗等が多く点在。また、駅に乗り入れするバスの便が少ない等の理由により、バス利用が促進されず、駅の交通結節点（ハブ）機能が果たされていない等の問題がある。
- 総合戦略に掲げる目標達成のためには、JR松橋駅、小川駅周辺地域の活性化に向けて、空き店舗対策、商店街の活性化、公共交通対策など総合的に推進していることが特に重要。
- そのため、「駅まち☆未来創生会議」を設置し、現状と課題、必要な事業、支援策、取組方針等を議論し、来年3月末までに一定の結論を得ることとする。

【駅まち☆未来創生会議】

- 構成：本会議には、庁内の関係部職員（部長、次長、課長級）及び民間構成員を置く。
また、必要に応じてワーキンググループ（WG）を置く。
- 検討項目：
 - ① JR松橋駅、小川駅周辺整備に係るこれまでの検討経過
 - ② JR松橋駅及び小川駅周辺地域における交通結節点機能の実現方策
 - ③ JR松橋駅周辺地域における空き地・空き店舗等の活用及び魅力あるまちなみ実現の方策
 - ④ 報告書のとりまとめ
- 検討期間：平成29年11月に第1回会合を開催し、平成30年3月を目途に取りまとめを行う。
- 事務局：企画部企画課が関係課の協力を得て行う。

「公共交通対策WG」の検討事項

3

- 路線バスは市民にとって一番身近な公共交通機関であるにも関わらず、松橋駅においては乗り入れするバスの便が少ない等の理由から、利用者が少ない。
- また、松橋駅に乗り入れするバスの便が少ないため、松橋駅の交通結節点(ハブ)としての機能が低く、今後、少子・高齢化が進行し、交通・買物弱者が増加していく中で、公共交通機関である路線バスの利用を促進させるためには運行系統や運行回数などの運行計画の他、バスターミナル機能の在り方を含めた抜本的な対策を講じることが必要。

＜公共交通対策を通じた活性化イメージ＞

路線バスの運行計画
等の再編
(地域公共交通会議との連携)



交通結節点としての
機能向上策の検討



バスターミナルを核と
した駅前周辺活性化
策の検討



松橋駅周辺地域の活性化

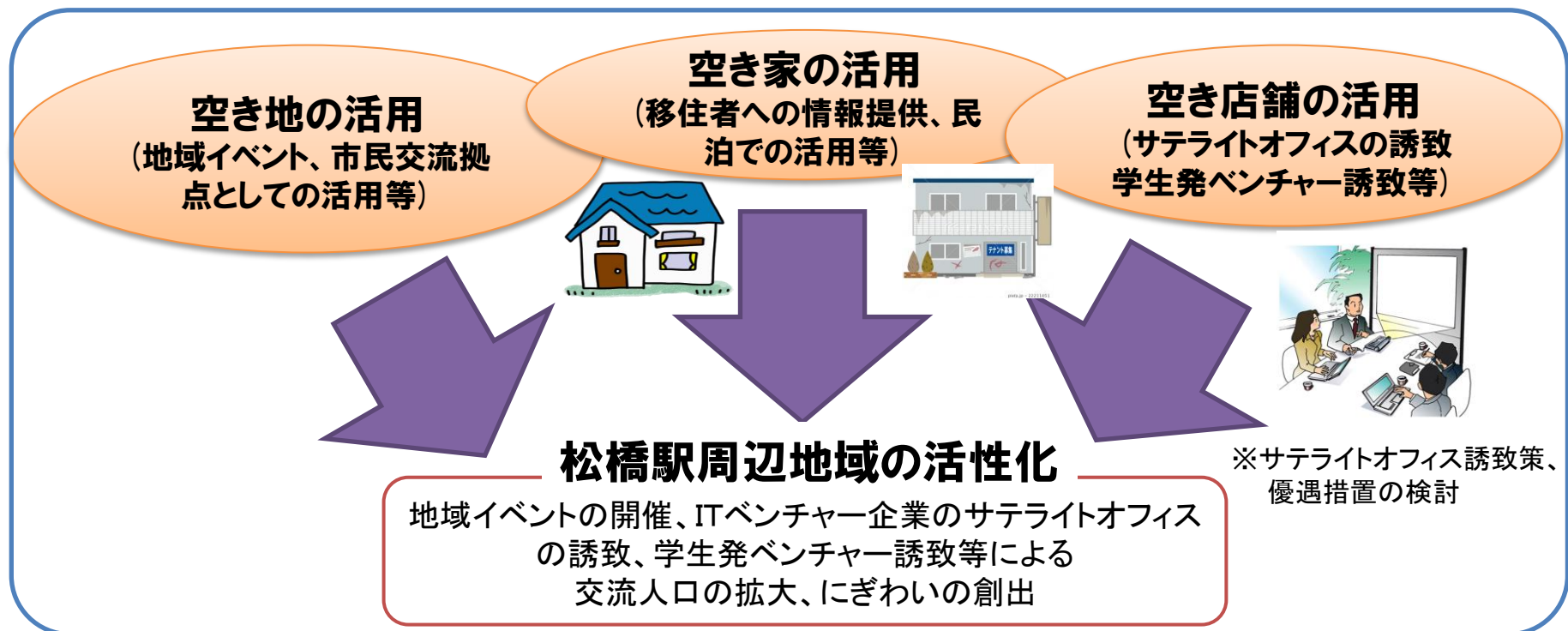
松橋駅東口の公共交通機関の利用の促進、バスターミナル化の実現、交流人口の拡大、にぎわいの創出

「駅まち活性化検討WG」の検討事項

4

- JR松橋駅東口には商業地や住宅地があり、市街地を形成しているが、近年の大規模店舗の進出等の影響により、地元商店街も空き店舗が目立っている。
- また、昨年の熊本地震の影響により、被災した店舗や住宅の解体が進むなど空き地、空き家、空き店舗が多く点在。
- 松橋駅周辺地域の活性化を図るためには、これらの空き地、空き家、空き店舗の活用策を検討しながら、住宅の再建や商店街の再構築を検討し、魅力あるまちづくりを推進していくことが重要。

＜空き地、空き家、空き店舗を活用した活性化イメージ＞



「小川駅開発構想推進WG」の検討事項

5

- JR小川駅周辺地域は教育環境が整い、本市の中でも数少ない人口が増加している地域であるが、線路により東西のアクセスが悪く、これまで東側地区を中心に小規模開発が行われてきた。
- 一方で、平成26年の宇城・氷川スマートICの開通や、27年には小川駅の線路をまたぐ、「県道竜北小川停車場線(跨線橋)」の開通により、国道3号線までのアクセスが飛躍的に向上した。
- 小川駅周辺地域の更なる活性化を図り、定住化を推進させるためには、鉄道利用促進のためのパークアンドライド化の実現に向けた西口の駐車場や駐輪場の整備、駅西口改札口の整備方策を検討し、ひいては将来の住宅地開発が促進されるような基本構想を早急に策定することが重要。

＜小川駅の周辺整備による活性化イメージ＞

小川駅西口改札口の
整備
(JR九州との協議の上検討)



パークアンドライド化の
実現
(駐車場、駐輪場の整備等)



交通アクセスの強化、
住宅地の拡大



小川駅周辺地域の活性化

地域住民の駅西口の利用拡大、パークアンドライド化による鉄道利用の促進、交通アクセスの強化等による
交流人口の拡大、にぎわいの創出

検討会のスケジュール(案)

6

